愛グループ

Ai Group 45th Anniversary

Since 1972-2017

喜ばれる会社へ、もっと。

Ai Group 45th Anniversary

Since 1972-2017

45

◆ 45 周年スローガン ◆

「喜ばれる会社へ、もっと。」

愛グループの「十の誓い」の最初の一行に、『お客様第一主義に徹する』という言葉があります。
45 周年のスローガンでは、この誓いをさらに強め、自分たちの姿勢だけでなく、
実際にお客様に喜ばれることを目指すという思いを表明しています。
愛グループの仕事はサービス業であることを常に意識し、これからの時代を進んでいきます。

［ロゴのコンセプト］

45 周年を迎えた記念すべき年に、
さらにその先へ突き進む思いを込めて
デザインしたロゴマークです。
しっかりと落ち着いた紺をベースに、
祝福をイメージした金色を合わせ、
シンプルながら力強い表現としています。

Anniversary Logomark

斯界は未曾有の試練に直面する

我が国における少子高齢化は、異常とも言える勢いで進んでいる。総務省統計局は、このまま進むと2050年には「人口9,000万人」まで減少すると紙上公表した。現人口から、凡そ3,700万人が消散することになる。取り分け、人口に占める高齢者の割合が否応なく昇騰し、僅か10年後には超絶した高齢化社会に立ち至ることは明白である。既にその兆候は顕著に加速しており、我が国の将来は喫緊かつ重大な局面に突入しているのである。

中でも、人口比例産業と呼ばれる斯界の盛衰は、激減する人口と緊密な関係にあり、既に市場では危うい現象が様々な形で惹起している。我々の事業も窮することは必至である。我々は、生き延びるための新手法を講ずべき切迫した段階に入っていることを思い知らねばならない。

試練の一つが、ブライダル市場の存外な減縮である。私が創業した当時は、年間100万組を優に超えた婚礼も、今日では63万組を割っており、さらにグラフは限りなく下降していく。ひと昔前には辞書にもなかった「ナシ婚」「ジミ婚」「できちゃった婚」が、公用語として国語辞典に歴と登場しているから驚愕する。

加えて、男女共に脅威の晩婚化が進行している。男子32歳・女子30歳（2015年統計）というから驚きである。既に、同業において少ない牌をめぐる死活を懸けた激戦の火蓋は切って落とされたのである。向後、凄絶な死闘は斯界の至理であり、敗者はマーケットから容赦なく退場を余儀なくされるだろう。生死を分かつ戦争擬きのバトルにおいて、生半可な戦力では敗して絶命する。手堅いタクティックスと、果敢な攻略で強豪を打ち負かす不屈のファイターを打ち揃えなければ討ち死にあるのみである。

一方、フューネラル業界を下瞰すると、団塊の世代が当対象人口に移行することから、現在の年間130万件から170万件に向って増え続け、暫時件数に関する不安はない。しかしながら、様態が著しく変化しており、20年前に較べると儀式規模が及びもつかぬほど小規模化し、愁いの影を落としている。

ひと昔前にはなかった「無縁社会」と言う新語も登場し、斯界を不安で包んでいる。国語辞典によると、「無縁社会」は2010年1月放送されたNHK番組のタイトルに由来し、家族・地域コミュニティーなどが人々の生活を支える機能を失い、人間関係が希薄になった社会のこと。プライバシー意識の浸透、大規模雇用の減少、核家族化、未婚率の増加、少子高齢化などが影響しているとされている。

かかる実情を引き金に、葬儀・告別式への参列者は激減を極めている。しかも、ひと昔前の半数を大幅に下回るレベルダウンであり、我々の前途に脅威の荊棘が立ちはだかっている。殊に関西では、香典の習慣を排除したり会葬返礼を省略したりするなど、新たな習わしが根付いており、全国に広がりを見せている。これらの問題は、商う側からすれば深刻を極める大難事である。

以上から、世知辛さが増すばかりのマーケットにおいて、向後如何に処していけばよいのか。我々は、有らん限りの叡智で模索し、新戦略を打ち立て、確固とした決意で臨まなければならない。

本来、世の流れは、変化変容に満ち満ちており、これを乗り切ることが事業の妙味であり、実力であり、長命の要件である。そもそも、果報とは剣呑の向こう側に潜んでいるものである。私がこれまでに歩んできた道も、過酷な試練の連続であった。しかし、乗り切れないものなど一つたりともなかった。向後、さらに立ちはだかる障阻は、これまでよりも桁外れに手強いものだろう。だが、全スタッフが一枚岩になって当たれば、必ず乗り切れるものと確信している。

諸君は、来る創立50周年に向けて、超絶のスーパーエクセレントカンパニーを確立すべく、勇往邁進してほしい。これを果たした時、勝利の美酒が鶴首していることを堅く約束する。今日、ここに第46事業年度の進発の緒に就き、総員が気焔を吐いて勇躍することを祈望する。

今こそ、私の座右の銘「疾風に勁草を知る」の出番である。

愛グループ代表　神田　忠

次世代へ「愛」を貫き、心の時代をつくる――

代表取締役社長　神田　輝

合言葉は「喜ばれる会社へ、もっと。」

愛グループは、1972年（昭和47年）の創業以来、半世紀にわたって冠婚葬祭互助会事業を営み、このたび晴れて創業45周年を迎えるに至りました。まずは、この場をお借りしてご厚誼賜った関係者各位に、心からの感謝を申し上げます。

さて、この記念すべき節目に、我々はスローガンとして「喜ばれる会社へ、もっと。」を掲げました。これは、「愛グループはお客様のために存在する」という固い決意を、全スタッフが再認識するための言葉です。

お客様に対して、「忘れていた何か」「至らなかった何か」「手掛けなかった何か」「生かしきれなかった何か」があったのではないか、もう一度自らの心に問い、決意新たに再挑戦する契機としてもらいたいと考えています。そして、このスローガンから、愛グループがこれから目指すミッションがスタートすることになります。

愛グループのブランディング

一体、愛グループは何処を目指しているのか。この点を置き去りにして闇雲に突き進んでいるだけでは、「喜ばれる会社」への道筋は決して見えてきません。今回、我々は愛グループのブランディングを最重要課題と捉え、以下の「ミッション（事業の社会的な存在意義・使命）」「ビジョン（これから、どのような会社になるのか）」「バリュー（どんな価値観で仕事に取り組むのか）」を策定しました。

◆ミッション「心の時代をつくる」

我々の仕事は、お客様の人生を、セレモニーを通して一生、全てサポートすることにあります。お客様が家族との絆を強め、隣人との付き合いをより良いものにし、心と心のふれあいの大事さに気づくことができるサービスを提供し、「人も自分も幸福を感じる心の時代」をつくるのが我々の使命です。

◆ビジョン「その心に、真心とITで応える先進集団へ」

我々は、「心と技術の融合を実現する集団」を目指します。お客様一人ひとりの心に、儀式人として精一杯の真心を以てお応えするとともに、最新のIT技術を駆使し、これまでに会社が蓄積してきた情報資産を発展的に活用した高次元のサービスを提供することで、よりニーズに即した深い満足と感動を享受していただくことに邁進します。

◆バリュー「個人のチカラ×会社のチカラ」

個人の力を鍛え、そこにグループ全体の力を掛け合わせることで、愛グループが持つポテンシャルが最大限発揮でき、個人のチカラと会社のチカラによるシナジー効果によって更なる飛躍が可能と考えます。そのために、旧態依然とした枠組みを超えて連携できる柔軟な組織へと変化させていきます。

全スタッフがこれを意識に定着させ、着実に実行していくことで、愛グループのブランディングは成功し、お客様に喜ばれる会社としてこれまで以上に存在感を示すことができるはずです。

新たな挑戦が始まる

我々は、創業者である現会長からとてつもなく大きく、価値ある事業を継承することになりました。愛グループの卓越した収益力、安定した財務力、影響力ある社会的ポジション、力強い社風、多くの人から愛される業態など、これほどの財産を受け継ぐ我々は最高に幸福であり、光栄なことです。

私個人としても、現会長の背中から多くのことを学んできました。中でも、「飽くなき挑戦」という姿勢には最も影響を受けています。常識レベルを超越した戦いに何度も果敢に挑み、そのたびに力強いリーダーシップを発揮して成功に導いてきた経営者の姿を、間近に見ることができたのは僥倖でした。それだけに、引き継いだ事業をいかに展開し、時代に即した発展をさせるかを考えると、身が引き締まる思いです。しかし、立ち止まって逡巡している猶予などありません。前を向き、未来を見据え、お客様のため、スタッフのため、すべての関係者のため、受け継いだ財産をより豊かで強固なものに育てていくことを、ここに誓います。

我々は今、新たなスタートラインに立っています。激しい時代の変化の下、目前には未曾有の試練が立ちはだかっており、荒れ狂う高波に漕ぎ出す厳しい船出となるでしょう。それでも、私を含めた愛グループの総員が、「この船に乗って共に戦いたい」と願う頼もしい仲間の集合体に進化すれば、どのようなピンチも必ず乗り越えることができると確信します。これが、今日始まる、我々の新たな挑戦です。

目　次

45周年ロゴ・45周年スローガン —— 002
代表メッセージ —— 004
社長メッセージ —— 006

Special Issue
巻頭特集　愛グループの最先端・未来を見据えた 躍動の5年間 010

Chapter 1　ブライダル事業 —— 012
Chapter 2　ホテル事業 —— 018
Chapter 3　レストラン事業 —— 019
Chapter 4　フューネラル事業 —— 020
Chapter 5　ライフセレモニー事業 —— 024
Chapter 6　介護事業 —— 026
Chapter 7　販売事業「合掌堂」 —— 028
Chapter 8　販売事業「Jewel Ai」 —— 029
Chapter 9　流通システム事業「トレーダー愛」 —— 030
Chapter10　愛グループの事業ネットワーク —— 034
Chapter11　進化を遂げる愛グループ —— 036

Part1　愛グループの次世代を見据えて 挑戦と飛躍 —— 038

Chapter 1　代表訓話『冥冥之志』 —— 040
Chapter 2　忠塾 —— 044
Chapter 3　人財育成マネジメント —— 046
Chapter 4　会議 ～組織の活性化～ —— 048
Chapter 5　新卒採用 —— 050
Chapter 6　研修制度 —— 052
Chapter 7　ITCフロンティア（次世代リーダー育成） —— 053
Chapter 8　資格取得奨励制度　ブライダルプロデューサー —— 054
Chapter 9　資格取得奨励制度　葬祭ディレクター —— 056
Chapter10　資格取得奨励制度　ソムリエなど —— 058
Chapter11　各種表彰制度 —— 060
Chapter12　各事業部の人間力 —— 062
Chapter13　地域密着の活動 —— 066
Chapter14　愛グループのCSR　企業の社会的責任 —— 069
震災後活動報告 —— 070

Part2　愛グループの最先端がここにある 発展力の集結 —— 072

Chapter 1　41事業年度 —— 074
Chapter 2　42事業年度 —— 078
Chapter 3　43事業年度 —— 082
Chapter 4　44事業年度 —— 086
Chapter 5　45事業年度 —— 090
『航空機リースビジネス開始』 —— 093

Part 3　総合経営史45年の歩み —— 094

Chapter 1　1972～2011年 —— 096
Chapter 2　2012年 —— 104
Chapter 3　2013年 —— 106
Chapter 4　2014年 —— 108
Chapter 5　2015年 —— 110
Chapter 6　2016年 —— 112
愛グループ 5年間のM&A —— 114

Part4　資料編 —— 116

ブライダル衣裳の変遷 —— 118
ブライダル料理の変遷 —— 120
ブライダルCMの変遷 —— 122
ブライダルPRの変遷 —— 124
フューネラルCM・PRの変遷 —— 126
社内報『CAT』の変遷 —— 128
会報誌『ふれあい』の変遷 —— 130
ディナーショーの変遷 —— 132
創立記念式典 —— 134
忠塾（まことじゅく） —— 136
会社概要 —— 138
社是・実践訓・愛グループ 十の誓い・企業理念・Company Message —— 140
グループネットワーク —— 142
施設一覧 —— 144
企業データ —— 160
愛グループの年表 —— 162

Contents